

肢体不自由児を対象とした通級による指導の実践例 －自立活動の時間における指導に焦点をあてて－

山田 康朝*

I. はじめに

文部科学省に置かれた『特別支援教育の在り方に関する特別委員会』から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」が報告（文部科学省, 2012）された。その中で、連続性のある「多様な学びの場」として、小・中学校には、以下の3点が示された。「特別支援学級」、そして、「通級による指導」、「センター的機能としての地域支援」である。

通級による指導は、1993（平成5）年4月に、『通常学級に関する調査研究協力者会議』の答申を受けて、正式な制度として開始された。具体的には「通級による指導は障害の状態がそれぞれ異なる個々の児童生徒に対し、個別指導を中心とした特別の指導をきめ細かに、かつ弾力的に提供する教育の一形態」である（文部科学省, 2012）。これまでの経緯として、2006（平成18）年4月に施行された「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、新たな障害種として、学習障害者と注意欠陥多動性障害者が通級による指導の対象者として加えられた。また、情緒障害者としてまとめられていた自閉症者と心因性の情緒障害者が分離された。肢体不自由者については、2002（平成14）年5月に通知された「障害のある児童生徒の就学について」の「第八号その他障害のある者」に括られている。なお、通級による指導の制度的な位置づけについては、学校教育法施行規則第140条および141条に示されている。

平成27年度「通級による指導実施状況調査結果について」（文部科学省, 2015）によると、現在では、約9万人の児童生徒が通級による指導を受けている。その中で、肢体不自由を有する児童生徒数は68名で全体のわずか0.08%である。また、都道府県別によれば、千葉県が61名（約89%）であり、その大部分を占めている。

千葉県の肢体不自由を対象とした通級による指導について、2013（平成25）年4月より全国に先駆けて特別支援学校による通級による指導（肢体不自由）が千葉県立船橋特別支援学校で開始された。その後、2014（平成26）年9月には、本校（千葉県立松戸特別支援学校）も肢体不自由児を対象にした通級による指導を開始し、2015（平成27）年4月から

* 千葉県立松戸特別支援学校

は、全県下を網羅するに至る。

そこで、先駆的な千葉県の取り組みの一部を担っている本校の通級による指導の実践について報告することを通して、通常学級に在籍している肢体不自由児の自立活動の指導の実際について検討することを目的とする。

Ⅱ. 方法

1. 対象

(1) 対象児

対象児は、A市立A小学校通常学級に在籍する6年生男子A児である。

(2) 生活上の様子や通級による指導に至る経緯

二分脊椎を有する。独歩は可能であるが、両足底に褥瘡があることや下肢の軽度の感覚まひがあるため、怪我を予防する観点から、移動は主に車いすを利用している。また、足指が若干変形しており、立位姿勢を維持する際に足指を地面につけることは難しい。排泄では、自己導尿をしているが、衛生面では清潔の保持について教育上の課題がある。上肢の動きは在籍する学級の友達と変わりなく、学校外の活動として車いすテニスのクラブチームに所属して、放課後や休日を利用して汗を流している。医療的なりハビリテーションを受けていない分、体を伸ばす機会がほしいという保護者の要請で本校の通級による指導として受けることとなった。手続きとして、A県教育委員会やA市教育委員会と通級による指導に必要となる契約を取り交わした。その後、在籍校との開始時期や指導時間帯等を調整しながら、2015（平成26）年5月20日より指導を実施した。

(3) 指導の場所や時間帯、頻度

指導は、毎週水曜日の4校時目（11時25分～12時10分）、A児の在籍学級の国語の時間を利用して、A児の在籍校に筆者が訪問して個別に実施している。また、校外宿泊学習や体調不良による欠席等で実施することが難しい場合は、A児とその保護者、在籍校、本校の同意の下で別日に設けることがある。年間35単位時間を目安にしながら調整をして実施した。

(4) 移動手段や所要時間

A児の在籍校への移動手段は筆者が運転する自家用車である。水曜日は1・2校時目に他の学校で通級による指導を実施しているため、現地から直接出向した。所要時間は、約35分程度である。参考までに、筆者の1週間の代表的なスケジュールを図1に示す。

	月	火	水	木	金
		移動	移動	移動	移動
1	校内支援	通級指導 (巡回)	通級指導 (巡回)	通級指導 (巡回)	通級指導 (巡回)
2	校内支援	移動	通級指導 (巡回)	移動	移動
3	校内支援	校内支援	移動	通級指導 (巡回)	校内支援
4	校内支援	校内支援	通級指導 (巡回)	移動	校内支援
			移動		
5	校内支援	校内支援	校内支援	校内支援	通級指導 (本校)
6	校内支援	通級指導 (本校)	校内支援	校内支援	通級指導 (本校)

※「通級指導」とは、「通級による指導」の略称

※「巡回」とは、在籍校での通級による指導を指す

※「本校」とは、松戸特別支援学校での通級による指導を指す

図1 筆者の1週間の基本的なスケジュール

(5) 在籍校や保護者との情報交換のやり方

通級による指導開始前に、A児の在籍校の担任や保護者に学習上および生活上のA児の様子や、通級による指導への期待、要望を聞き取りした。また、個別の指導計画を作成・修正するために、年間3回の面談を実施した。また、不定期ではあるがタイミングが合えば、日々の指導の終わりにA児の学級担任との立ち話、職員室前を通った際に特別支援コーディネーターや管理職の先生との立ち話を行った。なお、今回の研究に際して、個人情報の保護の観点から文面による説明で、本人および保護者に同意を得た。

2. 実態や目標等

(1) 実態

A児の在籍校と保護者との情報交換や実際に行った数回の指導から、自立活動の時間における指導の授業として今後指導していく必要があると思われる実態を自立活動の内容区分を便宜的に使って表1に示す。

表1 自立活動の区分に適用した実態

	A児の実態	自立活動の内容区分
1	首、肩、背中に強すぎる筋緊張があり、上体の動かしにくさがある。	身体の動き・健康の保持
2	下肢の感覚の鈍さがあり、バランス性や支持性の低さがある。	身体の動き・環境の把握
3	褥瘡部位や自己導尿のケアの粗雑さがある。	健康の保持・心理的な安定
4	難しいと感じると投げやりになることがある。	心理的な安定・人間関係の形成

(2) 目標

上記の実態から、以下の目標を設定した。

- ・首や肩、背中の固さに気づき、自ら弛緩することを通して、緩め方や動かし方を身につけ、より安定した座位姿勢や立位姿勢をとる。
- ・身体の動きに関する実態を解決するプロセスを通して、できる実感を増やし、チャレンジする気持ちや意欲をもつことで、衛生面の管理の意識や心理的な負荷に対する耐性を高める。

(3) 具体的な指導内容

主に、以下の5つの内容を取り組んだ。自立活動の内容区分と関連させて表2に示す。

表2 自立活動の区分に適用した具体的な指導内容

	具体的な指導内容	自立活動の内容区分
1	基礎的な運動（運動発達の流れに沿った運動プログラム）	健康の保持・身体の動き
2	肩周り、背中、腰等の弛緩	身体の動き・健康の保持
3	座位姿勢や膝立ち姿勢での重心移動	身体の動き・環境の把握
4	お楽しみ課題（風船テニス、最近の様子のお話など）	心理的な安定・コミュニケーション
5	ガーゼ交換時の言葉かけによる清潔の保持	心理的な安定・人間関係の形成

3. 記録とその整理の仕方

指導記録を活用した。指導記録は、指導毎にその日のうちに自由記述にて作成するようにした。研究方法としては、上記5つの具体的な指導内容に対するA児の課題解決のプロセスで、特に印象に残った事柄を中心に下線を引き、考察で取りあげる。具体的には、A児自身がねらいに気づき、そのねらいを解決する努力をし、解決後の自己変容を経て行動変容するというプロセスを考察する。また、指導者がA児に、指導のねらいの意識化や解決の手立て、解決後の自己認知を援助する中で、感じられたことを記述することとした。下線を引いた事柄には、番号を記す。番号は、(1-1)のように記す。左側の数字は表2で示した具体的な指導内容に該当するカテゴリー番号である。右側の数字は、その通し番号である。

Ⅲ. 結果と考察

1. ねらいへの気づき (5月20日～7月8日)

5/20

初めての通級による指導だった。基礎的な運動を知らないとのことで、初めから一緒に取り組んでいった。ところどころ動かしにくさはある様子。仰臥位で足を上げ下げする運動では、左足が股関節から外転する動きが徐々に広がってきた。左股関節の固さがみられる。円背で、背中の硬さがみられる。それでもまだ少し、自分で動かせるように感じられた。よつばいでの前後運動では、前に動かす時に背中を反らすことができた。膝立ちは少し腰が屈曲して、ひけていた。

5/27

基礎的な運動のポイントを伝えながら行う。タイミングをみて、話もしながら取り組んだ。将来は車いすテニスの選手になりたいということだった。よつばいでは、左手と右足、右手と左足で2点支持のバランス課題に取り組む。少し難しそうにしていた (1-1)。あぐら座位での背中を反らす動きや腰を起こしたり寝かせたりする動きでは、「むむ」と難しそうに考えて、自分で動かす様子がみられた (2-1)。体に触れられることがくすぐったいようで、笑っていたので、本人の手の上から触れて動かしていくようにした。

6/3

褥瘡部位のケアの仕方について聞き取りをした。基礎的な運動は自分で取り組む。膝立ちは腰が屈曲して若干ひけているが、左右前後のバランスが自分なりの動きで上手に姿勢保持できた。かくかくと腰をひいて固めて保持する動きがあった (3-1)。あぐら座位では腰だけを動かそうとすると、背中も一緒に屈曲する動きや反らす動きがでてくる (2-2)。最後に風船テニスをしたが、とても楽しそうにしていた。

6/10

褥瘡部位のケアの仕方について話した。靴下を取り替えることや靴を定期的に脱いで患部を蒸らさないようにすること等を担任に伝えて良いということだった。担任には、保護者の協力が必要になることと、学級でもできる限りの対応をお願いしたいということを伝えた。あぐら座位で肩を上げ下げする動きでは、自分で動かす部分と援助されて動かせる部分の違いを確認した。最後に風船テニスを行い、「え、もう終わりなの？早かった。」と最後に言っていた (4-1)。

6/17

褥瘡部位のガーゼがはがれかかっている、膝立ちや立位ができなかったので、あぐら座位で腰の動きを引き出していった。まだ、あぐら座位で腰を寝かせる動きをすると背中も丸くなるため、背中を触れて動かないようにして、他動的に腰のみを動かしていった。あぐら座位での左右の重心移動も行う。その後、風船テニスを行う。褥瘡部位のケアの話は特に進展がなく、担任に確認したところ、まだ保護者には伝えていないようだ。

6/24

学校に早めに着くと、プールにいたA児はこちらに気づき、車いすでもの凄いスピードで坂道を

登り切ってプレイルームに移動した。校舎内に入った時に車輪が外れ、直している様子もみられた。プレイルームに入ると階段移動のときに車いすを運んでくれた友達も一緒に活動していいということを担当に伝えられたということで、一緒に活動した。基礎的な運動は一緒に取り組み、ポイントを押さえながらとても楽しそうに取り組めた。今回は友達がいたこともあり、とても活発に取り組んでいた。とてもいい表情だった。細かい動きを伝えていくことの大切さと安全面への配慮を意識することは今後も伝えていけたらと感じている。

7/1

基礎的な運動を丁寧に取り組み、一つ一つポイントを確認しながら取り組んだ。左右のバランスがまだとりづらいようで、膝抱え、よつばいでの2点支持等のバランスを保つ課題は「あー」と言って、姿勢を崩すことがある(1-2)。そこで、ブリッジでは、片足ずつ取り組むようにしてバランス感覚の学習をしていくようにした。

7/8

右手首にボールをぶつけて痛めたと話していた。また、先日の保護者面談で話した内容の中で、安全面や健康面を伝えていった。褥瘡部位のケアについて、「大丈夫、大丈夫」と言って面倒くさがりやらないので、しっかり伝えていくようにした(5-1)。その後、基礎的な運動を通して、体を弛緩していった。バランス課題は教師の補助がないと難しい様子。また、その後、風船テニスを行った。また、褥瘡部位のケアの見守りをした。

毎回の授業の冒頭にウォーミングアップとして位置付けて取り組んでいる基礎的な運動である膝抱えやよつばいといったバランスを保つ指導内容は、維持することが困難で姿勢を崩すことがあった。「少し難しそうにしていた」(1-1)や「あー」という発言の後に姿勢が崩れてしまう(1-2)ように、姿勢が崩れたことの再確認や落胆の気持ちが表れている。

肩周り、背中、腰等を弛緩する感じを促したが、一部位を弛緩すると他の部位も連動して弛緩することがあった。「むむ」と難しそうに考えて(2-1)いることや、あぐら座位では腰だけを動かすと、「背中も一緒に屈曲する動きや反らす動きがでてくる」(2-2)ことから、自分なりの動かし方で、弛緩する感じをつかむことのできないもどかしさが表れていると考えられた。

「膝立ちは腰が屈曲して後方に若干ひけているが、左右前後のバランスが自分なりの動きで上手に姿勢保持できた」(3-1)で示されている通り、膝立ちでの重心移動では、腰がひけた状態で姿勢を保ちながら動かしていた。重心が床から高くなり、自分の姿勢の特徴に気づく難易度の高まりによって、ねらいに気づくことが困難な状況であった。臥位姿勢や座位姿勢での各部位ごとの指導の積み重ねの必要性が考えられる。

「え、もう終わりなの？早かった。」(4-1)という発言は、指導の時間を意識することから離れて、身体の動きに集中して取り組んだ結果として考えられた。

一方、「褥瘡部位のケアについて、「大丈夫、大丈夫」と言って面倒くさがりやらない

ので、しっかり伝えていくようにした」(5-1) というように、褥瘡部位のケアの重要性が認識されていないことがわかる。これは、身体の動きに関する実態を解決するプロセスである、気づきが不十分であることや言葉かけのみの指導ではA児にとって、褥瘡部位のケアの重要性を認識しにくいことが考えられる。

2. ねらいを解決する努力過程 (9月2日～12月9日)

9/2

夏休み中は、車いすテニスの大会に出て4位で微妙だったとのこと。毎日のように部活があり、疲れたとのこと。また、時間を見つけては公園で友達とゲームをしているようで、充実している様子。体の様子は、褥瘡部位は変化なし。左肩にじーんとした痛みがあるとのこと。左の背中に、はりと固さがあった。動かしづらそうだった。基礎的な運動は、一通り忘れていたが動き始めのきっかけを伝えると「あー」と言って思い出す。上手にできた。膝抱えでは、左足を抱えたと左側に転んでしまうため、自ら右側に体重をのせて転ばないように工夫していた(1-3)。両膝抱えは、左に転ぶことが多い。よつばいでの3点・2点支持では、バランスが悪く崩れてしまう。風船テニスでは、夏休み中の出来事を会話しながらとても楽しそうにしていた。汗をかいたので、最後の着替えをしっかりと清潔を保つように心がけた。

9/9

「最近おかしい、壊れてきている」等と発言し、調子が良くない様子であった。算数も「大っ嫌い」で受け付けないと言っていた。明日から修学旅行ということだった(4-2)。痛いところは無いとのこと。褥瘡部位は変わらず。基礎的な運動は、自分で取り組む。膝立ちの重心移動では、右に行きにくい。左はスムーズにスーッと動いてくるが、右はかくかくするか、動かそうとすると上体が先行して先に行く(3-2)。あぐら座位では、「気持ち悪い」と言って吐きそうな様子。すぐに保健室に向かう。ベットで寝る。残り15分程度あり。

9/16

先週とは違い、落ち着いている。修学旅行が延期になったとのことだった。放送委員会が嫌だという話をした。体の様子は、褥瘡部位はだいぶよくなっている。左足はふさがってきた。ほんの少し赤みあり。右足はまだ赤みあるが穴はふさがっていることをお互いに確認した。また、右足親指、左足小指に赤みあり、靴があたっていることを確認した(5-2)。膝立ちの重心移動では、左にいきすぎて「あー」と言って止まれない(3-3)。あぐら座位での背中を反らす動きでは、左側の固さに当てて弛緩する。自分でフーッと弛緩する感じをつかむ。「こうかな」と実感している様子(2-3)。

9/30

「体がいったいんだよー。全身筋肉痛でさー」と色々聞いてほしい様子。聞くと、合宿にいったそうその後遺症らしい。今年は〇〇(※ある地名)、来年のはじめに〇〇(※ある地名)に遠征に行くんだと、充実した日々を送っている様子(4-3)。褥瘡部位の様子は、靴下がびしょびしょに濡れていた。靴下の替えが無く、持ってくるのを忘れた様子で、「あつ、ない」と話し

ていた。授業の最後に保健室に行き処置をすると話をした (5-3)。基礎的な運動は、次に何を
するか忘れていた。左股関節がとても固く動かしにくそう。腰のひねりでは、側臥位で自分で
腰をひねっていく。左腰は動かしにくそう。あぐら座で腰を起こしたり寝かしたりする動きは、
右腰がスムーズに動く分、左腰の動きが目立つ。

10/7

最近の様子は、筋肉痛もとれて元気。算数のテストで150点満点のテストを150点とったと嬉
しそうに話していた (4-4)。「疲れたー」と話していた。基礎的な運動では、形はぼつちり。バ
ランスを取る課題でも工夫して上手にできた (1-4)。肩の動きでは、右肩が左肩に比べて動き
が悪い。指摘すると意識してスーッとあげてくる。肩の後ろ側に強い筋緊張あり、固さを助長
している。動きを言語化するとそこを意識して動かそうとする努力が見られた。あぐら座位で
の背中を反らす動きでは、腰、背中、肩甲骨辺りを順に狙って弛緩していく。少し待つと自分
でスーッと弛緩することができた (2-4)。

10/13

3連休は試合が雨で中止になってしまい残念だったとのこと。体の様子は、膝関節の伸びがい
つもよりも悪いような気がした。基礎的な運動は、順番も覚えてきた。途中で写真撮影を行っ
た。膝立ちでの腰の動きでは、腰骨から指三本下のところから曲げていくようにした。肩周り
で引っ張るようにして動かすことが多かった。伝えると修正する様子が見られた。

10/21

1～4校時に学校祭があつて疲れたと話していた。体の様子は、左肩があがっていて疲れてはっ
ている様子。肩の動きでは、まずは自分だけで動かす。肩が猫背のように少し前に出ながら動
いていくので、一緒に真っ直ぐ上に動かしていくようにした。自分で動かして弛緩したり筋緊
張したりする練習。だいぶ肩先が下がった (2-5)。

11/4

今日はこの時間、学級は体育の授業で、本当は体育やりたいなーと話していた。なので、体
育の授業に出てもいいんだよと伝えるが、「嫌、大丈夫」と答えるのでそのまま続行する (4-5)。
先週の土曜、日曜は〇〇 (※ある地名) に車いすテニスの全国大会に行つて3位になったとのこ
と。昨日 (文化の日) は〇〇 (※ある地名) で車いすテニスの試合があつて4位だった。とても
充実していたとのこと。その分、疲れも溜まっているとのこと。体の様子では、膝の伸び具合
が悪い。座位では、左背中がはりと固さ。仰臥位での腕の挙上では、筋緊張にあててから「力
抜いてごらん、ふーだよ」と伝えると自分でフーと息を吐きながら力を抜いた。その分、動く
という繰り返しを行う。自分で動いた感じを伝えるが「微妙」と話す (2-6)。基礎的な運動で
は、肩周りに固さがあり、いつもよりも動きは鈍い様子。膝抱えでは、ころんと転がる。保持
することが難しい (1-5)。疲れかもしれない。あぐら座位の腰を寝かす動きでは、背中も一緒
に動いてついてくるが、指摘すると腰のみが動いてくることがあつた。

11/11

「眠い、疲れたー」と言いながら始まる。左背中がはっている。基礎的な運動は膝抱えのバ

ランスが悪い。それ以外は完璧。あぐら座位では、左の前屈は背中から曲がって股関節から曲げることが難しい。あぐら座位での肩を上げ下げする動きでは、若干前にのめりだす。方向を示すと上手に取り組めた。箱椅子では、足でしっかりと踏みしめて取り組めた。

11/18

1・2時間目は調理実習で沢山食べて満腹ということだった。あぐら座位で肩の動きでは、猫背気味の動きがあるので、一緒に動かしていった。あぐら座位で腰の動きでは、背中がついてきてしまうことがあった。椅子座位での左右の重心移動では、左には行きやすいが右は上体先行。右腰の動きが鈍い。触れて援助すると上手。膝立ちの重心移動では、右に動かしにくい。腰がひけて体がくの字におれてしまう。上体が先行する形。腰に触れて援助すると、体をまっすぐにしたまま重心を移動することができて「うん」と頷いていた (3-4)。

11/25

変わりなく元気。体の様子は左の筋肉量が多いことを車いすテニスのコーチにも言われたとのこと。基礎的な運動は、褥瘡部位の悪化 (5-4)に伴い、足の課題は取り組まなかった。立位はやめるとのこと。側臥位での足の蹴りだしでは、右の方が弱い。右は足底の小指側に力が入りやすい。授業の終わりには、褥瘡部位のケアをいつも通り行うように言葉かけをすると「不器用だけど、まあ仕方ないか」と話しながら行う (5-5)。

12/2

再来週に〇〇（※ある地名）に行って車いすテニスの試合をしてけるとのこと。体の様子では、全体的に疲れが出たとのこと。授業後は「すっきりした」と話していた (4-6)。基礎的な運動では、半寝返りの運動の時に、首に力が入ってしまう。声をかけるとその時は力が抜けて頭が床面に下りるが、時間が経つとまたすぐに首に力が入ってしまう。

12/9

体の様子では、肩周りの固さがある、動き自体は悪くない。膝が屈曲、拘縮している。基礎的な運動では、次の指導内容を忘れるくらい寝ぼけている様子。それでもバランスをとる練習では、しっかり自分で保持して取り組んでいた (1-6)。肩周りの緩めでは、左肩が動かしづらそう。弛緩する感じを他動的に伝えてから本人に弛緩してもらうようにした。褥瘡部位のケアでは、冬場になると患部が乾燥して、ぐじゅぐじゅが治りやすいと話していた (5-6)。

基礎的な運動で必要とされる姿勢のバランスを保つ指導内容では、自ら体重移動を行いバランスを保ったり (1-3)、形を整えて取り組んだり (1-4) して、自ら工夫して姿勢を保持しようとしていた。その後の「肩周りに固さがあり、いつもよりも動きは鈍い様子。膝抱えでは、ころんと転がる。保持することが難しい」(1-5) では、それまでできていた姿勢の保持が困難な状況となる。しかし、「バランスをとる練習では、しっかり自分で保持して取り組」(1-6) むことができたとしている。これは、本人なりの姿勢保持のパターンを崩して再構築する過程の中で起きたと考えられる。

また、肩周り、背中、腰等を弛緩する感じを促した。「自分でフーッと緩める感じをつ

かむ。」(2-3) や、「動きを言語化するとそこを意識して動かそうとする努力が見られた。」

(2-4)、「だいぶ肩先が下がった」(2-5)、「自分でフーと息を吐きながら力を抜いた。」(2-6) でわかるように、「こうかな」と自ら弛緩する感じをつかみ、弛緩の実感をしているようであった。その中で、筆者による、動きの言語化や動きを引き出すための見守りが本人の弛緩する実感を促していることが示されている。

膝立ちの左右の重心移動では、「右はかくかくするか、動かそうとすると上体が先行して先にいく」(3-2) や、「「あー」と言って止まれない」(3-3) というように、これまでと異なる動かし方をするので、できていた動きができなくなり、戸惑っていたようである。しかし、「腰を触れて援助すると、体をまっすぐにしたまま重心を移動することができて「うん」と頷いていた」(3-4) というように、教師の援助があるが、肩の余分な力を抜いて、腰をひいて動かすのではなく、本人が理想とする動きが引き出せて納得した様子であった。

「最近おかしい、壊れてきている」等と発言し、調子が良くない様子であった。算数も「大っ嫌い」で受け付けないと言っていた。明日から修学旅行ということだった」(4-2) ということからわかるように、毎回の授業で近況を会話する中で、学校行事の前は気持ち沈みやすく憂鬱である様子がわかる。しかし、「「体がいったいだよー。全身筋肉痛でさー」と色々聞いてほしい様子。」(4-3) や、「算数のテストで150点満点のテストを150点とったと嬉しそうに話していた」(4-4)、「体育の授業に出てもいいんだよと伝えるが、「嫌、大丈夫」と答える」(4-5)、「「すっきりした」と話していた」(4-6) でわかるように、積極的な発言が少なくない。例えば、「大っ嫌い」(4-2) な算数について良い結果があったことは、苦手な面にも意欲的にチャレンジしたことの成果や心理的な負荷への耐性が身につけてきている印象である。通級による自立活動の指導が、学校生活場面へと汎化したと考えられる。

褥瘡部位のケアについては、自己管理の意識を高められるように、「左足はふさがってきた。ほんの少し赤みあり。右足はまだ赤みあるが穴はふさがっていることをお互いに確認した。また、右足親指、左足小指に赤みあり、靴があたっていることを確認した」(5-2) というように、褥瘡部位の状況を確認するようにした。その後、「靴下の替えが無く、持ってくるのを忘れた様子で」(5-3)、意識づけがされて、その後忘れることなく、毎回自らガーゼや靴下を交換することができた。その後、褥瘡部位が悪化(5-4)するものの、「不器用だけど、まあ仕方ないか」と話しながらいったり(5-5)、冬場の患部の状況を説明したりして(5-6)、褥瘡部位のケアの重要性を認識して取り組もうとする発言が表れてきた。

3. ねらい解決後の自己変容(1月13日～3月9日)

1/13

1月10日に〇〇(※ある地名)で車いすテニスの試合があり、〇〇(※ある地名)の同級生に

負けて準優勝だったことを話していた。盾をもらって嬉しかったと話していた (4-7)。体の様子では、特に変わらないということだった。褥瘡部位も良くもなく悪くもなくということだった。基礎的な運動では、褥瘡部位が変わらずということで、足の運動はブリッジだけにした。よつばいでは、2点支持になると、ふらふらとしていたがよく保っている (1-7)。腕の挙上では、自分の動かしにくい部分ができるように「今ここでひっかかるよ」などと言葉をかけると、自分でそのひかかりをどうにかしようとする腕の動きが見られた。自分で弛緩することができると引っかけが取れて、スムーズに腕を動かすことができた (2-7)。

1/27

「腹減ったー」と言いながら入室。3月に〇〇 (※ある地名)、4月に〇〇 (※ある地名) で大会があるということだった。楽しみにしているとのこと (4-8)。今日は〇〇 (※ある地名) での練習の日だが、吹奏楽の練習が学校であるのでキャンセルしたとのことだった。体で痛いところはないとのことだが、ずっと座っていると、膝上のあたりが、つるとのことで痛みが出ることがあると話していた。ずっと座っていたことで、血流の循環が悪くなって固まってしまうことからくるものだと推察した。体の様子では、右腰周りの固さがあった。ひねる動きでひっかかりあり。左の方がスムーズ。基礎的な運動は、膝抱えでは、伸ばした足を教師が支えて取り組むと自分で頭と曲げた足をくっつけて簡単に行っている (1-8)。腰のひねりでは、右腰のひねりを行うと、上体もくっついてくる。ゆっくり自分で力を抜くように伝え、息を吐く時にフワッと緩むことができた。本人に確認すると、「微妙」と言いながらも自分で緩めたり動かしたりしている様子 (2-8)。立位では、後傾にして膝を曲げ伸ばしして踏みしめていくようにした。かかとをついてしっかりと踏み込めていた (3-5)。褥瘡部位のケアについては、教師に言葉かけされなくてもいつも通り取り組んでいる。自分で取り組まなければいけないことがわかっているようで、不器用ながらも集中してケアをしている様子が見られた (5-7)。

2/3

前時に外で体育の大縄飛びをやったと言っていた。手が冷たかった。跳ばずに見学したということだった。テニス話を自分からすることなく、疲れているのか、少し燃え尽きてしまっているのか元気が無いように感じた。〇〇 (※ある地名) のテニスは今日は行かないと言っていた。何かあった様子。体の様子では、腰周りの固さはない。体自体は特に固さは見られない。基礎的な運動では、膝抱えでは集中力が切れて体を動かさないことがあった (1-9)。立位では、後傾にして膝を曲げ伸ばしして踏みしめていくようにした。前回よりもかかとをついたまま足底全体を使って踏み込めていた (3-6)。

2/10

昨日友達とキャッチボールをして肩甲骨辺りが筋肉痛になったと話していた。その他は変わらないということ。土曜日に中学校に行くということ。体の様子は、全体的に動きが乏しい。少しなまっている様子。基礎的な運動では、膝抱えで体を支えた。立位では、後傾にして膝を曲げ伸ばしして踏みしめていくようにした。かかとをついてしっかりと踏み込めていた。側臥位で肩の弛緩では、筋緊張に当てて弛緩していくことを行った。体幹部のひねりでは、「気持ち

いい」と言ったり「眠い」と言ったりしていた (2-9)。

2/24

先週は風邪のためキャンセルになった。一日だけ休んだだけで体調は大丈夫ということだった。左のわき腹が痛むということだったので、動きの中で痛みがでてきたら教えてほしいことを伝えた。基礎的な運動では、座って行くことも考えてもいいかもしれないが、学校にいる時に横になって伸びる時間はほぼないので、横になって取り組むことも大切だと思い、継続して臥位姿勢で取り組んだ。膝抱えでは、バランスを崩してしまうので、支えるようにした。側臥位で腰のひねりでは、右腰はスーッと力が抜けて気持ちよさそうにしていた (2-10)。

3/2

「疲れたー」と「眠い」を繰り返す。本当に疲れがたまっている様子。これとって思い当たるところはないとのことだったが、「まあ、大丈夫」と言っていた。卒業を控えて精神的なストレスが溜まっていると推察した (4-9)。側臥位で腰のひねりでは、座布団を動かす足の下において滑りやすくした。動かしやすそうで、弛緩することが感じられやすい様子。あぐら座位で背中を反らす動きでは、左の背中が固く、緊張がある。動かせない様子だった。本人がモゾモゾと動かしながら緩めようとする様子が感じられ、ふわっと弛緩することができた。自分で弛緩した感じがあるか聞いてみると「できたね」と話していた (2-11)。

3/9

本人は〇〇(※ある地名)での試合が心に残ったようで、教えてくれた。4位になったことや、一試合の時間が2時間かかったこと、タイブレイクに持ち込んで、デュースになって取りつ取られつの戦いで負けてしまったが、楽しかったことを教えてくれた (4-10)。基礎的な運動では、自分で取り組み、形はほぼ完璧にこなしている。足底を使うメニューは外して取り組んだ (1-10)。

基礎的な運動について、「よつばいでは、2点支持になると、ふらふらとしていたがよく保っている」(1-7)や、「形はほぼ完璧にこなしている。」(1-10)のとおり、これまでの成果として、自分で取り組み、姿勢を保持することができるようになった。一方で、「伸ばした足を教師が支えて取り組む」(1-8)ことや、「集中力が切れて体を動かさない」(1-9)というように、さらなる指導の必要性が残っている。

肩周り、背中、腰等を弛緩する感じを促す指導内容では、「スムーズに腕を動かすことができた」(2-7)や、「自分で緩めたり動かししたりしている様子」(2-8)、「「気持ちいい」と言ったり「眠い」と言ったりしていた」(2-9)、「スーッと力が抜けて気持ちよさそうにしていた」(2-10)、「「できたね」と話していた」(2-11)ことからわかるように、強すぎる筋緊張が概ね弛緩する感じを「気持ちいい」や「できたね」という言葉で表現できた。これは、各部位ごとに注意を向けることができた成果でもあると考えられる。

立位での踏みしめる動作については、「後傾にして膝を曲げ伸ばしして踏みしめていく」(3-5)、「前回よりもかかとをついたまま足底全体を使って踏み込めていた」(3-6)のよ

うに、座位や膝立ちの発展として、立位での膝の曲げ伸ばしを行うことで、足底で踏みしめる動きに取り組むことができている。これは、座位より膝立ち、膝立ちより立位というより高度な動きへと変化する中で、細かい動きに集中する時間が増えてきた。

「〇〇（※ある地名）の同級生に負けて準優勝だったこと」や「盾をもらって嬉しかった」（4-7）、大会があり「楽しみにしているとのこと」（4-8）といった車いすテニスの話では、意欲的な発言が増えた。また、「本人は〇〇（※ある地名）での試合が心に残ったようで、教えてくれた。4位になったことや、一試合の時間が2時間かかったこと、タイプレークに持ち込んで、デュースになって取りつ取られつの戦いで負けてしまったが、楽しかったことを教えてくれた」（4-10）という記述は特に印象的で、勝負に負けても楽しめている気持ちの変化が感じられた。ここでは、車いすテニスの試合や心理的な負担など投げやりにならずに向き合う姿勢がつけられている。また、結果にこだわらず自分の頑張りを評価しているところはとても成長を感じた。一方、「卒業を控えて精神的なストレスが溜まっていると推察した」（4-9）では、卒業に向けての不安が精神的なストレスになっていることが示されている。

褥瘡部位のケアについては、「褥瘡部位のケアについては、教師に言葉かけされなくてもいつも通り取り組んでいる。自分で取り組まなければいけないことがわかっているようで、不器用ながらも集中してケアをしている様子が見られた」（5-7）で示されているように、当たり前のように自分でケアを進め、自己管理ができるようになってきた。

IV. まとめと今後の課題

児童の学習上または生活上の困難の評価から指導目標を個別に設定する実践である、自立活動の指導を年間通して行った。その結果、通常学級で行われる準ずる教育だけでは得られない成果があがった。特に、A児の障害特性の実態から導いた指導目標について、身体の各部位毎に注目して動かしていくためのプロセスを、自ら再現できるきっかけをつかむまで経験できたことが大きな成果である。結果としての身体の機能的改善を主眼とする取り組みではない、身体の動きを実感する取り組みをすることで、動作の改善という心理的な気づきを変えていくことができた。その結果、他の学校生活場面への汎化として、苦手な活動に意欲的に向き合うことが増えた。

一方、これらの成果を学校や家庭にどのように還元していくか、という点については、これら情報をどのように伝えていくかということも含めて、今後の課題であろう。通級による指導は、各児童生徒の日常生活上または学校生活上の困難から出発する。実践を積み重ねていくうちに、通級による指導が筆者による指導の場面にだけに限定され、A児のその他の日常や学校生活場面への関連づけが弱かったような印象は否めなかった。A児が地域社会で生活していく上で、A児をとりまく地域社会にどのようにつなげていくか、保護者や学校、市教委等とどのように情報共有を図っていくか、今後の実践の中で研究を進めて

いきたい。

文献等

- 1) 中央教育審議会（2012）共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進．文部科学省．
- 2) 文部科学省編著（2012）通級による指導の手引．佐伯印刷株式会社，3．
- 3) 初等中等教育局特別支援教育課（2015）通級による指導実施状況調査結果について．文部科学省．

注記

引用については，本論文全体での統一を図るため，「、(てん)」を「，(カンマ)」に置き換えた。